



2026年4月10日

各 位

会 社 名 クリングルファーマ株式会社
住 所 大阪市北区中之島四丁目3番51号
Nakanoshima Qross 未来医療 R&D センター10階
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 安 達 喜 一
(コード番号：4884 東証グロース)
問 い 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 村 上 浩 一
TEL. 06-7653-6728

日本呼吸器学会学術講演会における HGF の特発性肺線維症への 応用研究発表に関するお知らせ

2026年4月17日から4月19日まで、神戸国際会議場・展示場（兵庫県神戸市）にて開催される第66回日本呼吸器学会学術講演会 (<https://www.jrs.or.jp/jrs66/>) において、金沢大学と当社が共同研究を進めている肝細胞増殖因子 (HGF) の特発性肺線維症への応用研究について、以下の演題で発表されます。

演題：肝細胞増殖因子は2型肺胞上皮細胞の増殖を促進し肺線維化を抑制する

演者：武藤篤（金沢大学附属病院呼吸器内科 医員）

発表日時：2026年4月17日（金）17:10～18:10、ポスター発表

当社は、2024年6月18日付「HGF（肝細胞増殖因子）の特発性肺線維症への応用研究に関する金沢大学との共同研究開始のお知らせ」のとおり、金沢大学医薬保健研究域医学系呼吸器内科学／附属病院呼吸器内科の矢野聖二教授及び同大学院医薬保健学総合研究科／附属病院呼吸器内科の渡辺知志特任准教授とともに、HGF タンパク質を用いた特発性肺線維症の治療薬開発を目指し、共同研究を推進しています。本共同研究では、特発性肺線維症モデル動物を用いた HGF タンパク質の有効性評価に加え、分子レベルでの作用機序の解析を進めています。

特発性肺線維症は、肺が不可逆的に線維化する進行性の疾患であり、厚生労働省の指定難病に指定されています。当社が開発している HGF タンパク質は、臓器を問わず発症する線維化疾患に共通の病態を抑制する作用を有しており、これまでに複数の線維化疾患モデル動物において治療効果が示されています。

また当社は、現在、線維化疾患のひとつである声帯癒痕を対象として、国内における第Ⅲ相臨床試験を実施中であり、すでに症例の組み入れを完了しています。今後は、本共同研究の成果を活用し、線維化疾患における次のターゲットとして肺線維症への適応拡大を積極的に検討してまいります。

以上

特発性肺線維症について

特発性肺線維症は、原因不明の間質性肺炎の一種で、肺の不可逆的な線維化により乾いた咳や息切れなどの症状が出るようになり、ついには呼吸不全に至る病気です。特発性肺線維症は間質性肺炎の中でも特

に予後が悪く、診断後の生存期間は3～5年とされています。

日本における年間の発症率は10万人対2.23人、有病率は10万人対10.0人であり、厚生労働省の指定難病に指定されています。既存の医薬品としては、ピレスパ（一般名：ピルフェニドン）とオフエブ（一般名：ニンテダニブエタンスルホン酸塩）の2剤が承認されていますが、より効果の高い治療薬が求められています。

HGF（Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子）について

HGFは、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGFは神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之教授及び同医学部整形外科学教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALSに対する薬理効果は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGFへの期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGFの抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癬痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGFには、声帯癬痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象にHGFタンパク質医薬品の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、HGFタンパク質医薬品のレイトステージの開発パイプラインでは、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相臨床試験を終了し、さらに追加臨床試験に向けた準備を進めています。また、声帯癬痕を対象とする開発は第Ⅲ相臨床試験を実施中です。

当社は、HGFタンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。